

認知症の薬



新しいアルツハイマー型認知症の薬が発売されたと聞きましたが、治療につながるもののでしょうか。



認知症の原因の半数以上を占めるアルツハイ

マー型認知症の原因は、まずは脳の神経細胞周囲にアミロイドベータと呼ばれる物質が、続いて細胞内にタウという物質が蓄積し、最後に神経細胞が死ぬことにより起こるといわれています。以前は、残

された神経細胞を活性化することなどで、症状の進行を幾分遅らせることができませんでしたが、今回、この原因の一部、アミロイドベータの蓄積を抗原抗体反応を利用して除去することで、根本的な治療につながる薬が2種類、昨年末と先月発売



されました。最近の治験では、1年半の間に使用しなかった患者さんに比べて、アミロイドベータの蓄積が減少、認知機能が維持されたといわれています。もともと、アルツハイマー型認知症と正確に診断され、軽度の方と

いう条件があり、治療できる病院も限られますので、詳しくは神経内科や精神科などの専門の医師に相談を。アミロイドベータの芽を摘むことで、治療の芽が出ればいいですね。



朝倉病院
理事長／院長
田辺 裕久さん